

豊橋の豊かさを未来へ継承するために

<http://toyo.pbeins.net/>

12月定例市議会の概要

豊橋市議会12月定例会は、7日から17日まで開催され、補正予算案など十六の議案が審議され、それぞれ原案どおり可決されました。

補正予算は、障害福祉サービス等給付事業費（介護従事者報酬の改定の調整等）、生活保護扶助事業費（被保護世帯の増加等）、予防接種事業費（新型インフルエンザ等）、街路事業費（花田大崎線拡幅）などの追加、新政権方針による子育て応援手当廃止、期末手当一部カットによる人件費減



豊田一雄

少等により、全会計合計の補正額は五億六千七百万円となりました。

今回、情報の発信と収集の拠点となる東京事務所設置に関わる、条例案と補正予算案が上程されました。活発な議論の結果、いずれも原案が認められました。

一般質問を行ったのは24人。以下に豊田一雄の一般質問の概要を記します。

「無駄のない市役所づくり」について

世界は大不況の真っただ中にあり、景気の後退はさらに厳しさを増すことが予想され、市の財政も一層の厳しさが見込まれています。経常的収入の増加と無駄な支出の削減が喫緊の課題となつていると言えます。一方、佐原市長はマニフェ

2010年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。

昨年最後の豊橋市関連のビッグニュースは、フィギュアスケートの鈴木明子選手が、バンクーバーでのオリンピックに出場を決めたことです。演技前にコーチと交わす、自信に満ちた微笑みが印象的でした。心から祝福すると同時に、2月のオリンピック本番での鈴木選手の活躍を期待します。

このニュースに至るまで、今年の豊橋は様々な試練を受けて来ました。台風18号の襲来、三河港に立地するメルセデスベンツ日本・新社整備センターの日立市への転出計画発表などです。地球規模の自然環境変化や世界規模の経済変動の大きな波が、いろんな形になって表れてきたものと考えられます。



大きな波は豊橋に到来するまでにいろんな姿を見せるので、あらかじめ予想ができるという見方もできます。変化の時代の真ただ中であって、それをいち早くキャッチし備える力が問われているということなのではないでしょうか。漫然と変化を予測するのは大変困難なことです。しかし、大きな波の来ることが明らかになれば、産業、教育、福祉などの

各部門の担当者により、それぞれの部門への影響について予測し、備えることが可能になることも少なくないはずで

す。市議として、行政に対してそんな大波の到来を知らせる役割も果たして行けるように、しっかり勉強していきたいと考えています。

（豊田一雄）



ストの中で、「新たな行政へ」と題し「無駄のない市役所づくりの約束」を掲げています。無駄のない市役所づくりをどのようにして実現していくのか、今後の取り組みについて確認しました。①マニフェストに掲げた、市役所から無駄な仕事をなくすために行う全事業の見直しの方法は、事業仕分けを行うということ想定しているのか、②無駄を生まない風土づくりをどのように行うのか、③本来の目的である「住民福祉の増進」の徹底をどのような方法で進めるのか、などです。

これに対して、①については、「今一度、全ての事業を洗い出し、抜本的な見直しを行うべく、新たな経営改革プランの策定に早急に取り組んでいく。目の先の経費の節減だけでなく、本市の将来を見据え、また市民の皆さんが行政サービスや事業の内容・意義について、一緒になって考えて頂けるような方法を検討する」という答弁でした。②については、「予算について、執行経費の残は出来る限り不要額として残し、翌年度の財源に充当することを基本に進めてきている。大切なことは、職員一人ひとりが常にコスト意識をもち、業務改善とサービス向上を図り、そのことを組織として徹底していくことと考えている」とした。③については、「管理職員のマネジメントを通じた目的意識の醸成や、市民満足度の向上を目的とした各種教育を実施し、常に市民本位で行動できる職員の育成を図っていきたい。頑

張った職員が報われるような制度の構築について、引き続き検討を重ねていく」との答弁でした。

市長からも「新年度の予算編成では徹底した経費の削減を求め、自らの目で確かめながら作業に当たっている。市民の意見を十分にお聞きする中で、更に徹底した見直しを行い、無駄のない市役所づくりに進める」との発言がありました。

「市内立地企業から信頼される市政のあり方について」

三河港に立地する、メルセデスベンツ日本・新車整備センターの日立市への転出計画が、11月に発表されました。この機会に、豊橋が「企業が出て行かれる町」ではなく、「企業が集まる町」となる方策を考えなくてはなりません。まさに地域間競争の時代となっている中、企業活動がしやすい町であることの基本として、行政が信頼される町となることが重要となります。そこで、今回のベンツに関連するニュースを受け、どのように対応し、今後の課題として何を学んだか、を聞きました。



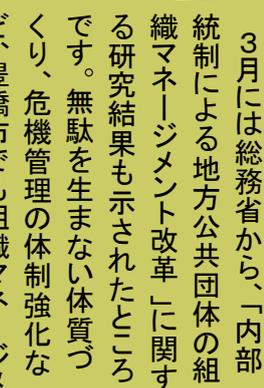
まず最初の質疑では、2月に、ベンツの部品センターが二〇一〇年の秋に習志野市への転出計画が発表された際の対応を確認しました。その対応は「報道発表後、職員を同センターに訪問させ、移転

理由や今後のスケジュールを伺うなど、状況の把握に努めた」ということでした。三河港のシンボルの一つでもある企業の重大なできごとであり、市のトップが企業の本社に対して働きかけるべき時だったにも関わらず、このような対応だったわけ

です。この段階では県との連携も不十分だったようです。因みに、11月の新車整備センターの転出発表の際には、市長がメルセデスベンツ日本の本社を訪問したとのことでした。

これらの対応の反省に立ち、本市の産業施策全般の危機管理ということを見直すことが急務ではないかと問いに対しては、「企業の皆様から信頼されるためには状況に際し、的確な対応を遅れることなく行うことが何より大切。企業活動の様々な状況を想定した対応策を検討する必要がある」という認識が示されました。

3月には総務省から、「内部統制による地方公共団体の組織マネージメント改革」に関する研究結果も示されたところ



です。無駄を生まない体質づくり、危機管理の体制強化など、豊橋市でも組織マネージメント改革の必要性が高まっていることが考えられます。佐原市長に対して、いち早く全国に先駆けて、市の組織マネージメント改革に着手することを呼び掛けました。

会計処理問題調査特別委員会

平成21年5月、国土交通省及び農林水産省所管の補助事業にかかる事務費の会計検査院実地検査が、豊橋市を対象として行われ、平成15年からの5年間で補助金の目的外使用など、約6千万円の不適正処理が指摘されました。これに先立って3月には、市の全庁を対象として自己点検による経理処理の調査を実施したところ、平成18年度と19年度の2年間で、差替えなど合計約千7百万円の不適切会計処理が発覚しました。私的流用はないとのことでした。

このことから、会計処理の適正化と不適正経理の再発防止について調査研究を行うため、市議会に会計処理問題調査特別委員会が設置されました。12月24日に行われた第1回の委員会で、豊田一雄の行った市の「自己点検」に関する質疑について、右に記します。

まず、不適切経理の発生を予防できなかったかという観点から、平成18年に発覚した岐阜県庁の裏金問題の際の対応を確認しました。豊橋市においては、部長会議で取り上げ調査を喚起した、各部局においても調査を行い預け金はないものと確認をした、とのことでした。また、差替えなどの不適切経理は、「本来必要な手続きを省くために行われた」という説明について、それはだれがどういうルール違反をしたのかを

質しました。答弁では、発注及び検収を行った管理職を含む職員が、市の定める契約規則を守らなかったということが明らかになりました。この他、内部通報の制度がありながら機能しなかったこと、差替え納品された物品が適正価格であったかの確認がまだされていないことも指摘しました。

これらを基に、1月末に予定される第2回の委員会で再発防止策について、議論して行く予定です。

※月2回程度、メールマガジンを配信しています。ご希望の方は、下記ホームページでアドレス登録をお願いします。

<http://toyo.pbeins.net/mm.html>

清志会ニュース

http://www.geocities.jp/t_seishikai/

○12月議会での一般質問(清志会は7名が質問)

豊田一雄 議員(前述の通り)

坂柳泰光 議員

1. 台風18号被害を踏まえた防災対策について
2. アイプラザ豊橋の本市への移管の状況について・・・など

鈴木道夫 議員

1. 佐原市長のこの1年間の取り組みと自己評価について
2. 平成22年度の予算編成について・・・など

久保田 正 議員

1. 新型インフルエンザの教育への影響と対応について

2. 「ええじゃないか豊橋 プレミア商品券」等について
尾崎義明 議員

1. 家畜排せつ物の適正処理に対する指導について
2. 地籍調査について

佐藤多一 議員

1. 人口減少・高齢化社会における社会資本ストックについて
2. 産業の育成、雇用の確保及び人材の育成について

岩瀬 篤 議員

1. 動物行政の現状と取り組みについて
2. 吉田城にまつわる逸話や言い伝え等の収集について